

-地域と大学を結ぶ- りえぞん No. 1

編集発行：武庫川女子大学 教育研究社会連携推進室

「りえぞん」発行にあたって

昨年 4 月に発足した当部署は、1 年を終え、取り組むべきことの多さに驚きつつ、地域における大学の役割が重要視される中で、重要な部署だと実感をしています。特に、学外の自治体や企業と学内を繋ぎ、教育研究のテーマ発見の道筋をつけ、更にはその結果、課題解決の方策が見つかることは、地域にとっても有意義なことです。今後とも更に学内外のお役に立てるよう、一層の努力をする所存です。その一環として、活動内容の報告や学内外の皆様の本学の社会連携活動に対する思い等を、この様な紙面で年に数回お届けすることにしました。皆様にお読み頂けることを期待しております。

(教育研究社会連携推進室 室長 大坪 明)

教育研究社会連携推進室ホームページ開設

& 本学の地域連携活動を公開

本学の先生方の地域連携活動の調査を実施したところ、100 件近い事例が集まり、実に多くの研究者及び学生が、地域と連携した活動をすすめていることが解った。これらの中で公開の了解が得られた活動を、平成 29 年 4 月に開設した『教育研究社会連携推進室』の HP (<http://www.mwu-shakairenkei.jp>) に掲載している。学内・学外を問わず、活動一覧のリストや下図の様な各活動の詳しい内容を閲覧することが可能である。

活動概要	活動の目的
<p>2017年度「関西大学」機関誌「関西大学」に「教育研究社会連携推進室」の活動について掲載された。これは、大阪府立大学との連携による教育研究の成果をまとめた。これは、大阪府立大学との連携による教育研究の成果をまとめた。これは、大阪府立大学との連携による教育研究の成果をまとめた。</p>	<p>2017年度「関西大学」機関誌「関西大学」に「教育研究社会連携推進室」の活動について掲載された。これは、大阪府立大学との連携による教育研究の成果をまとめた。これは、大阪府立大学との連携による教育研究の成果をまとめた。</p>
<p>2017年度「関西大学」機関誌「関西大学」に「教育研究社会連携推進室」の活動について掲載された。これは、大阪府立大学との連携による教育研究の成果をまとめた。これは、大阪府立大学との連携による教育研究の成果をまとめた。</p>	<p>2017年度「関西大学」機関誌「関西大学」に「教育研究社会連携推進室」の活動について掲載された。これは、大阪府立大学との連携による教育研究の成果をまとめた。これは、大阪府立大学との連携による教育研究の成果をまとめた。</p>
<p>2017年度「関西大学」機関誌「関西大学」に「教育研究社会連携推進室」の活動について掲載された。これは、大阪府立大学との連携による教育研究の成果をまとめた。これは、大阪府立大学との連携による教育研究の成果をまとめた。</p>	<p>2017年度「関西大学」機関誌「関西大学」に「教育研究社会連携推進室」の活動について掲載された。これは、大阪府立大学との連携による教育研究の成果をまとめた。これは、大阪府立大学との連携による教育研究の成果をまとめた。</p>
<p>2017年度「関西大学」機関誌「関西大学」に「教育研究社会連携推進室」の活動について掲載された。これは、大阪府立大学との連携による教育研究の成果をまとめた。これは、大阪府立大学との連携による教育研究の成果をまとめた。</p>	<p>2017年度「関西大学」機関誌「関西大学」に「教育研究社会連携推進室」の活動について掲載された。これは、大阪府立大学との連携による教育研究の成果をまとめた。これは、大阪府立大学との連携による教育研究の成果をまとめた。</p>

また、昨年度に回答をし忘れていた活動、あるいは新たな活動に関して、適宜、部署 HP に追加することが可能である。随時活動報告を受け付けているので、積極的に HP を利用していただきたい。

他大学との連携授業の履修登録始まる

臨床医工学や情報学の高度人材を育成する教育プログラム「広域大学連携科目」の履修申込書受付が開始された。これは本学(栄養、医療、福祉、薬学)と、奈良先端科学技術大学院大学(情報学、生命科学)、大阪電気通信大学(情報工学、臨床工学、医療福祉工学)、大阪薬科大学(薬学)、関西大学(工学、生命科学)、藍野大学(看護学、理学療法学、作業療法学、臨床工学)、森ノ宮医療大学(看護学、理学療法学、作業療法学、臨床検査学、鍼灸学)が連携して実施する。2017年度は、以下のプログラムが開講される。

- リベラルアーツ教育プログラム：医療や福祉の現場で働く際に必要な倫理や道徳観の習得。
- 社会教育プログラム：フィールドワークやグループワークを中心に、地域の課題解決を図る。
- 理系女性人材育成プログラム：本連携科目修了生の経験談を伺い、将来のキャリアを明確化する。
- プロフェッショナル教育プログラム：医療現場での活躍を目指し専門的知識を習得する。病院や研究所での実習が予定されている。
- アクティブラーニング・プログラム：グループワークとプレゼンテーションで、コミュニケーション力を磨く。愛仁会千船病院見学を予定。

履修する会場は、本学中央キャンパス、関西大学千里山キャンパス、大阪薬科大学キャンパスである。

これらのプログラムは、通常の本学の履修登録とは異なり、4月25日17時までに教育研究社会連携推進室ないしは学内に設けられた広域大学連携科目の履修申請受付箱に履修申請書を提出する必要がある。大心、新健、大応、大食、大康、新薬の学生は、専門科目として卒業要件の単位に計上可能である。

それ以外の学科の学生は、卒業要件の単位に算入不可であるが、全学科の学生が受講可能だ。他学科、他大学の学生と共に学び、視野を広げるチャンスでもある。積極的な受講を期待したい。問い合わせは広域大学連携事業事務室まで。(TEL:079845-9856)
又は、E-mail:kansai5u@mukogawa-u.ac.jp

広域大学連携事業の修了証授与式を実施

平成 29 年 2 月 22 日に大阪薬科大学サテライト研修室にて、平成 28 年度の修了証書授与式が行われ、大阪薬科大学、関西大学、武庫川女子大学の学長より修了証が授与された。

他大学や自治体等と連携協定を締結

本学は、地域や他大学との連携を強化するために、昨年度、以下の協定を締結した。

- 就職支援に関する協定
広島県、福岡県、兵庫県
- 障害者スポーツを支援する協定
兵庫県障害者スポーツ協会
- 学術交流協定
関西大学先端科学技術推進機構
- 教育研究の連携・協力に関する協定
大阪大学大学院基礎工学研究科
大阪大学大学院工学研究科及び工学部
大阪大学医学系研究科

学外企業等との連携成果

若者向け基礎化粧品セットの開発

情報メディア学科の井上ゼミでは、西宮市の産業支援策の一環として、同市産業文化局の紹介で、西宮市に本社を置くカツウ化粧品からの依頼を受け、若い女性向けの基礎化粧品のトライアルセット「コスメッコ」を開発した。基礎化粧品は、熟年になってから使うのでは遅いという趣旨から、女性に若い時から基礎化粧品に興味をもって使って欲しい企業の要請に応えたものだ。昨年の本学の文化祭で試験販売したところ、好評であった。学生が企業の実務と触れあい、その中で揉まれるのは良い体験になったことだろう。



情報メディア学科 HP より

茶摘み体験

兵庫県北県民局の依頼により、「阪神アグリパーク構想」の一環で、「農」と「食」を結びつけて地域産品の利用促進を図るために、三田市で生産されている母子茶（もうしちや）の茶摘みを本学の学生たちが体験した。

かごいっぱい茶葉も、完成すると 1/5 になるとの説明を受け、貴重な体験ができた感想を話した。



学院 HP より

小松菜の活用促進

JA 兵庫六甲 西宮営農支援センターの依頼により、西宮市で栽培されている小松菜の活用方法の検討を、食物栄養学科（高橋先生）に依頼した。小松菜をペースト状にすることで、様々な用途が広がる提案をしたが、ペースト加工する業者が簡単には見つからず、当面、フリーズドライした小松菜をインスタントの味噌汁の具とする案が実現した。

学生によるライブラリーカフェの試み

西宮市産業文化局より紹介された市内のコーヒーメーカーと提携し、図書館のカフェが更新される。新たにコーヒーマシンを置いて情報メディア学科の藤本第二ゼミ（松野先生・大谷先生）の学生が販売し、マーケティング戦略の立案や、若い女性が好むブレンド開発等を実習する予定である。また、松野元教授によれば、同カフェを例えば作家を招いたカ

フェトークの場にするなど、様々な活用方法を考え、学外の方々にも集ってもらえる場にしたいとのこと。実現を期待したい。

◆
当部署では、教員及び学生の教育研究に資する、実社会との連携の機会を探る一環として、この様な学外からの要請に応える努力をしている。諸先生方に無理な依頼をお願いする場合もあるかもしれないが、教育研究に利用できる機会と捉え、積極的に活用をしていただきたい。

研究成果の社会還元を促進

平成 29 年 2 月 15 日に図書館グローバル・スタジオにて、本学の研究者 6 人が社会に還元したい研究成果を発表し、学内外の約 50 人が出席した。その後企業等と各研究者が個別に相談し、連携の動きが芽生えている。当部署では、今後もこの面を強化し、今年度は発表者を倍増させたいと考えている。



発表会当日の様子

活発化する近隣団地での活動

本学の近隣に立地する浜甲子園団地・武庫川団地（UR 都市機構）、芦屋浜高層住宅団地（兵庫県住宅供給公社）等において、学内の複数の学部・学科・研究所が地域における活動を展開してきた経緯があり、2014 年に、本学は、UR 都市機構、兵庫県住宅供給公社とそれぞれ包括連携協定を締結している。2015 年には、こうした流れを受け、協定締結の当該団地の活動に関連する大学内外の主体が集まり、ゆるやかに情報交換、連携をおこなっていくことを目的に、「地域社会と大学の連携研究会（発起人：生活環境学科水野優子）」をたちあげ、2016 年度には第 2 回（6/29）、第 3 回（2/23）と開催を重ねている。

本研究会では、当該団地で活動を展開している生

活環境学科、音楽学部、薬学部、情報メディア学科、教育学部、健康スポーツ学科、国際健康開発研究所の既存の活動報告をおこなうとともに、食物栄養学科、看護学部など新たな学部・学科からの今後の活動展開の可能性についての大学内外参加者間での意見交換がおこなわれた。本研究会での情報共有、意見交換をもとに、浜甲子園団地では、団地のエリアマネジメント組織である「一般社団法人まちなね浜甲子園」と大学教員が協力して、地域での魅力的な学びと交流の場を提供するプロジェクトである「HAMACO:COLLEGE」などもスタートしている。

学外も期待する本学の社会連携の取り組み

○西宮市大学連携課

「文教住宅都市」を掲げる西宮市にとって、大学の存在はまちの貴重な資産です。武庫川女子大学様は、これまでも積極的に社会連携に取り組んで来られましたが、2016 年に教育研究社会連携推進室が設置されたことで、より緊密かつスピーディーな連携が可能になったと思います。今後も本市のまちづくりのパートナーとして、より一層の協力関係を築いていくことを強く期待しております。（岡崎州祐様）

○OUR 都市機構西日本支社

武庫川団地における「リソ」、DIY 改修、団地内のイルミネーション等の貴大学の取組みは、団地にお住まいの方からも評判がよく、情報発信による団地の知名度の向上にもつながっております。今後ともよろしく願い申し上げます。

（兵庫エリア経営部団地マネジャー 山下紳一郎様）

○兵庫県住宅供給公社

芦屋浜の取組では、生活環境学科の皆さんが企画・設計等、主体性を持って取り組んでくれました。プロジェクト名やロゴを含め、随所に見られた感性の高さに驚くと共に、住民の皆さんとも上手に意思疎通を図り、良好な関係構築に貢献され大変助けられました。ありがとうございました。

（住宅企画部明舞団地再生課 神吉竜一様）

○りそな銀行

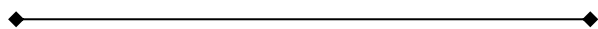
日本のあらゆる地域で顕在化している様々な課題をどう解決していくか…。それには、今までの前提

を捨てて、改めて広い視座で地域を見渡す必要があると思います。そこに学生の皆さんのみずみずしい感性が必ず活きると信じています。期待しております。(営業サポート統括部兼大阪府立大学客員准教授 奥田浩之様)

○一般社団法人まちなね浜甲子園

武庫川女子大学様は、これまでも浜甲子園団地にて様々な学部・学科が活動されており、今後の当団体におけるエリアマネジメント活動においても、ご指導とご協力を賜り、より一層連携できるようにしたいと考えています。

(株)長谷工コミュニティ／HITOTOWA INC.様



連絡先：本館 5 階 社会連携推進課 中村・荻田・鈴木
内線：6210、6213 / E-mail: shakai@mukogawa-u.ac.jp